



2026年8月期中間決算説明資料

Chordia Therapeutics株式会社
(証券コード：190A)

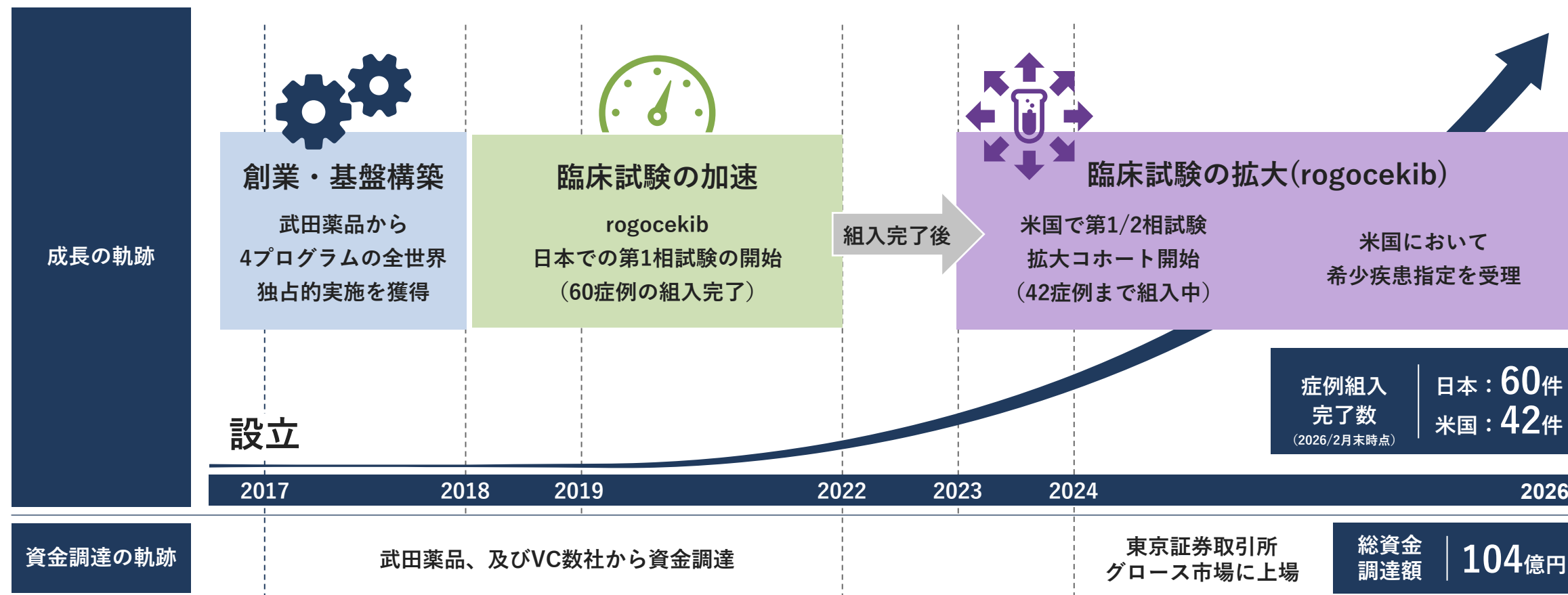
2026年4月14日

目次

| | | | |
|----|------------------|----|----|
| 1. | 会社概況 | P. | 3 |
| 2. | 2026年8月期 第2四半期業績 | P. | 6 |
| 3. | パイプラインの進捗状況 | P. | 10 |
| 4. | 事業の振り返りと今後の見通し | P. | 17 |

会社概要および沿革

| | | | | | | | | |
|------|-------|--------------------------|-----|---------------|-------|------------------|-------|----------|
| 会社概要 | 会社名 | Chordia Therapeutics株式会社 | 設立日 | 2017年10月12日 | 本社所在地 | 神奈川県藤沢市村岡東2-26-1 | 資本金 | 1,128百万円 |
| | 証券コード | 190A | 代表者 | 代表取締役CEO 三宅 洋 | 社員数 | 23名 (内、PhD12名) | 累積調達額 | 約104億円 |



多様な専門性で事業成長を加速する経営体制

- CEOと専門性豊かな社外取締役が、迅速な意思決定で事業成長をけん引

代表取締役



CEO
三宅 洋

- 2017年10月にChordia Therapeuticsを共同創業（CEOに就任）
- 武田薬品工業で20年以上創薬研究に従事し、がん創薬ユニットの日本サイトヘッドを歴任、6つのプログラムにおいて臨床試験開始に貢献
- 大阪大学薬学部卒業、東京大学大学院 薬学系研究科博士課程修了、薬学博士

社外取締役



戦略助言

中村 学
(新生キャピタルパートナーズ代表取締役)

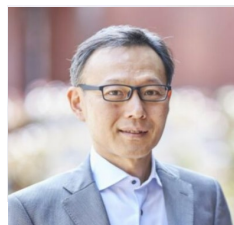
社外取締役



戦略助言

土屋 裕
(元 エーザイ代表執行役、マルホ社外取締役)

社外取締役



戦略助言

平崎 誠司
(元 アンジェス取締役、元 オリシロジェノミクス代表取締役)

監査等委員（社外取締役）



会計

石井 幸佑
(公認会計士/
ラクオリア創薬社外取締役)



研究開発

西方 ゆかり
(元武田薬品工業オンコロジー領域
ユニット日本・アジア代表)



法律

橋本 阿友子
(弁護士：骨董通り法律事務所)

目次

| | | | |
|----|------------------|----|----|
| 1. | 会社概況 | P. | 3 |
| 2. | 2026年8月期 第2四半期業績 | P. | 6 |
| 3. | パイプラインの進捗状況 | P. | 10 |
| 4. | 事業の振り返りと今後の見通し | P. | 17 |

研究開発・コーポレート活動ともに順調に進行

研究開発

rogocekib

臨床試験
症例登録総数

**日米102名
症例登録を完了**

海外

rogocekibの創製に関する研究成果を
*ACS Medicinal Chemistry Letters*に公開

血液がん対象の国内First-in-Human 試験結果
*Blood Advances*に掲載

**拡大コホート開始決定
2026年2月**

CTX-439

CTX-439 京都大学との
共同研究の論文掲載
2026年3月

CTX-177

データ移管にかかる協議完了
解約合意書の締結
2026年2月

コーポレート活動

共同研究

眼科疾患領域における共同研究2件（千寿製薬、デ・ウエスタン・セラピテクス）

IR活動（発信/対話機会の拡充）

日経東証IRフェア2025、札幌ストックボイス、第9回資産運用EXPO、個人投資家向けIRセミナー、投資勉強会など

2026年8月期 第2四半期（中間期）の業績（損益計算書）

- 原薬・製剤関連のコストが減少し、前年同期比にてコストが減少している

単位：百万円

| | 2025年8月期 第2Q実績 | 2026年8月期 第2Q実績 | 増減 |
|---------------------|-------------------|-------------------|--------------|
| 事業収益 | - | - | - |
| 直接費 | - | - | - |
| R&D費用 | 799 | 510 | △289 |
| rogocekib (CTX-712) | 624 | 318 | △306 |
| CTX-177 | 0 | 5 | + 5 |
| CTX-439 | 11 | 3 | △ 8 |
| その他（含む人件費） | 163 | 186 | +23 |
| その他一般管理費 | 196 | 152 | △44 |
| 営業損失（△） | △996 | △662 | + 334 |
| 営業外収益/特別利益 | 23 | 51 | + 28 |
| 営業外費用/特別損失 | 2 | 21 | + 19 |
| 税引前当期純損失（△） | △975 | △632 | + 343 |
| 法人税等 | 1 | 0 | △ 0 |
| 当期純損失（△） | △976 | △633 | + 343 |

2026年8月期（中間期）のポイント

- rogocekib: CTX-712（CLK）：

- ・米国における第1/2相臨床試験では、これまでに6症例追加して、42症例を登録済み
- ・当年度において、原薬・製剤関連コスト（329百万円）が減少した影響

- その他一般管理費：

- ・特許関連コストが減少した影響

2026年8月期 第2四半期（中間期）の財政状態（貸借対照表）

●第9回の新株予約権の行使を着実に進めており、現預金残高（開発資金）を十分に確保している状況である

単位：百万円

| | 2025年8月末 残高 | 2026年8月末 残高 | 増減 |
|------------------|----------------|----------------|-------------|
| 流動資産 | 2,669 | 2,500 | △169 |
| 現金及び預金 | 2,548 | 2,447 | △101 |
| その他 | 121 | 52 | △69 |
| 固定資産 | 12 | 12 | - |
| 資産合計 | 2,681 | 2,512 | △169 |
| 流動負債 | 244 | 197 | △47 |
| 固定負債 | - | - | - |
| 負債合計 | 244 | 197 | △47 |
| 純資産合計 | 2,437 | 2,315 | △122 |
| 負債及び純資産合計 | 2,681 | 2,512 | △169 |

2026年8月期（中間期）のポイント

● 流動資産、純資産：

- ・営業活動による支出611百万円に対して、新株予約権の行使による収入499百万円の影響

目次

| | | | |
|----|------------------|----|----|
| 1. | 会社概況 | P. | 3 |
| 2. | 2026年8月期 第2四半期業績 | P. | 6 |
| 3. | パイプラインの進捗状況 | P. | 10 |
| 4. | 事業の振り返りと今後の見通し | P. | 17 |

5つのパイプラインのうち、2つは臨床ステージ ～市場性の高いrogocekibに集中し、価値創出を加速～

- 市場ポテンシャルを有する rogocekibに経営リソースを集中し、日本・米国での迅速承認を目指す
- その他のパイプライン（CTX-177/CTX-439/GCN2）は、ライセンス導出を通じて収益化の機会を検討

| | 標的 | 開発コード | 一般名称 | 主な適用がん種 | 開発ステージ | 現時点での 想定オプション |
|---|----------|-------------|-----------|--|-------------------------|--|
| ① | CLK阻害薬 | CTX-712 | rogocekib | 急性骨髄性白血病(AML)、 骨髄異形成症候群(MDS)、 卵巣がん、その他固形がん | 日本第1相試験終了、 米国第1/2相試験 | 迅速承認（第2相後） 日本：自社・製造販売 米国：ライセンス導出 |
| ② | MALT1阻害薬 | CTX-177 | | リンパ系腫瘍 | 第1相試験 | ライセンス導出 |
| ③ | CDK12阻害薬 | CTX-439 | | 固形がん | 前臨床試験終了済み | ライセンス導出 |
| ④ | GCN2阻害薬 | 開発コード なし | | 固形がん、血液がん | 前臨床試験 | ライセンス導出 |
| ⑤ | 非公開 | 開発コード なし | | 固形がん、血液がん | 前臨床試験 | 未定 |

rogocekib CTX-712(CLK阻害薬)の開発マイルストーン

～日米102名の症例登録と臨床試験のプロセスが着実に進捗～

- FDAが提唱する「Project Optimus」の理念に基づき、患者の安全性と治療効果の最大化を目指し、より精度の高い用量設定に向けて開発スケジュールを見直している。用量設定の最適化により、品質向上と承認後の臨床的価値最大化を目的としている。
- 臨床試験の症例組入は着実に進行中(日米102名症例登録済(2026/2月末時点))、米国FDAから希少疾病用医薬品(Orphan Drug)指定を受理する等、規制当局との連携も順調に進んでおり、臨床試験のプロセスは着実に進捗。

2026年2月末時点での達成状況

- 2026年2月 rogocekib の日米102名の症例登録済
- 2026年2月 rogocekib の拡大コホート開始決定

現時点での想定マイルストーン

- 2026 中期 rogocekib の米国臨床試験の第1相中間成績公表
 - 2027 中期 rogocekib の日本/米国臨床試験の第2相試験開始
 - 2028 後期 rogocekibの日本での販売承認申請
- [] : 実施中

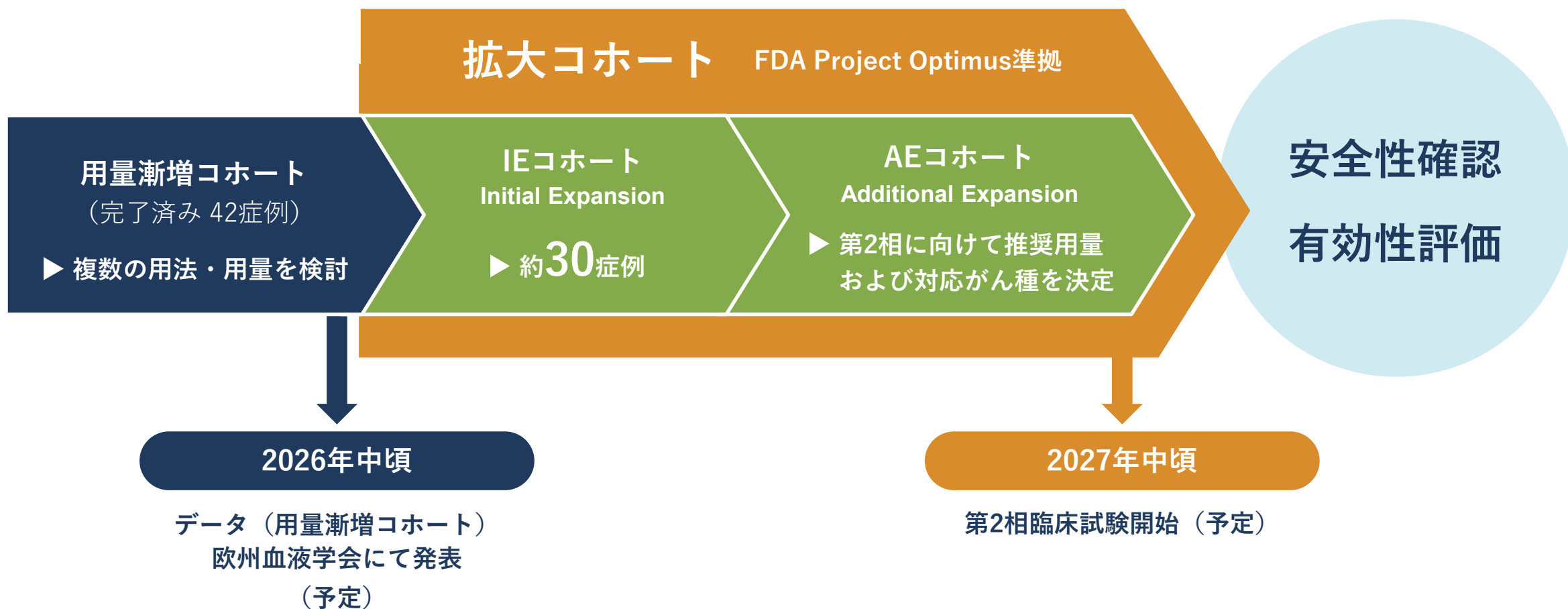
| CY2024 | | CY2025 | | CY2026 | | CY2027 | | CY2028 | |
|----------------------------|----|----------|----|------------------|----|-------------------|----|-----------|----|
| 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 |
| 日本第1相試験 (AML/MDS等) | | | | | | | | | |
| 米国第1/2相臨床試験の第1相パート AML/MDS | | | | | | | | | |
| | | 拡大コホート開始 | | 欧州血液学会中間成績公表(予定) | | 第2相パートは日米で実施予定(注) | | | |
| | | | | | | | | 販売承認申請(注) | |

(注) 臨床試験が当社の想定どおりに進行することを前提とした仮定の記載であり、必要な臨床データが当社の想定どおりに収集できない場合や、臨床データが収集できたにもかかわらず何らかの理由により次の臨床試験の実施や承認申請が実施されない、又は実施までに時間を要する場合には、記載された時期と異なる時期に実施される、または全く実施されない可能性がある

Rogocekib CTX-712(CLK阻害薬) : 拡大コホートの開始決定

拡大コホートの目的

安全性確認と有効性評価に基づき、推奨用量および対応がん種を決定



収益化戦略と「選択と集中」

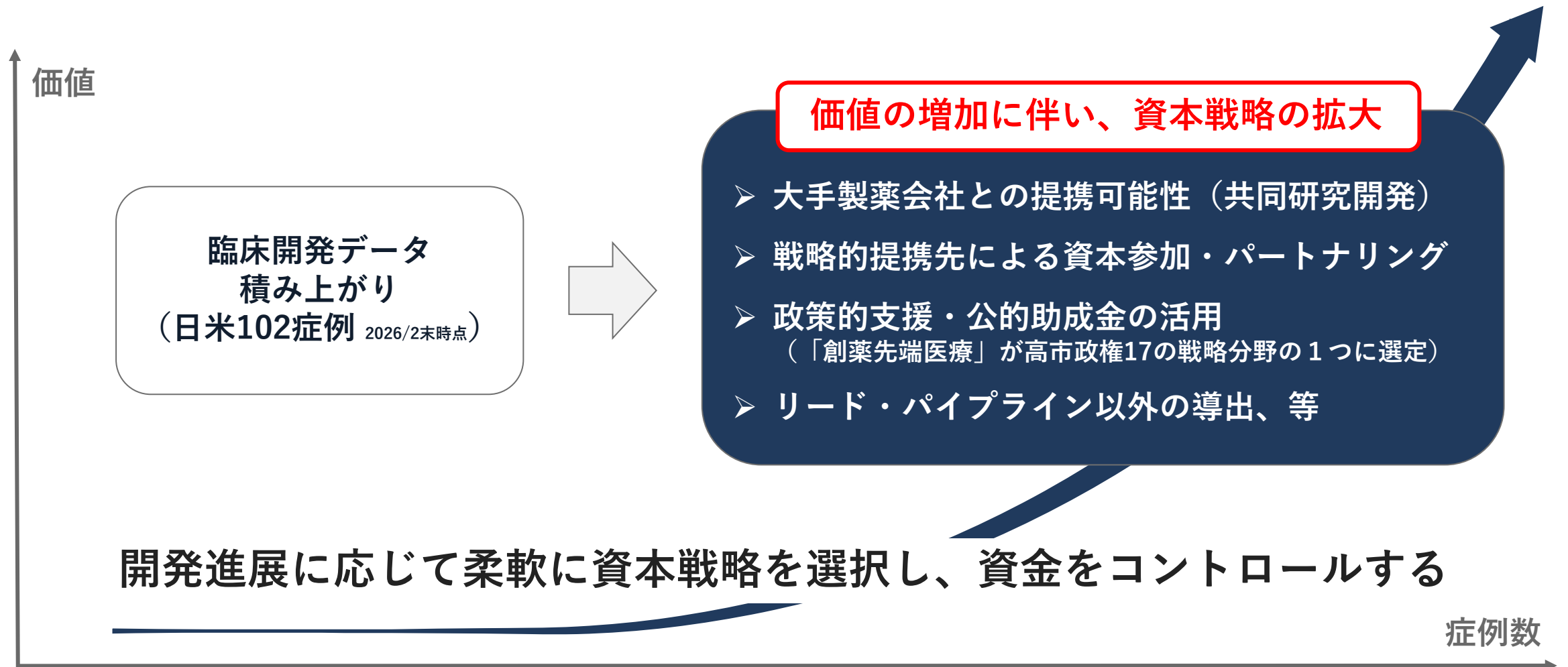
～戦略（開発期間の短縮）×「選択と集中」（低分子・ファーストインクラス・プレジジョン）～

- 探索から臨床研究へ重点を置くことで、開発期間を大幅に短縮させ価値創出を早期化
- 低分子医薬品（製造リスク低）・ファーストインクラス（世界初）・プレジジョン（成功率の向上）にて、リスク低減と高リターンを実現
- 大手製薬会社と同水準の開発力を有するチーム（半数がPhD）による推進



不確実性に対応しつつ、価値創出を加速する多様な資本戦略

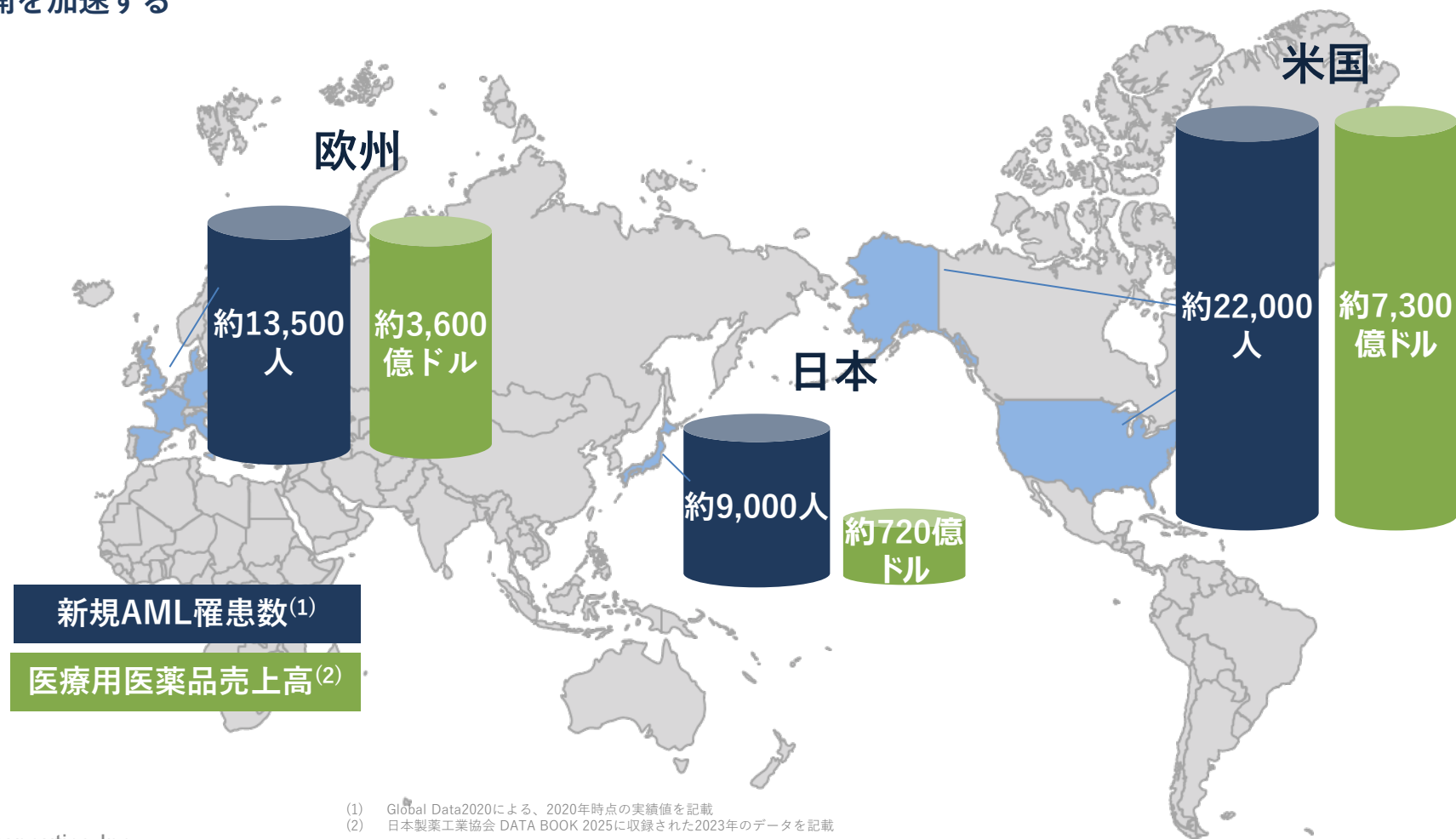
- 日米における臨床データの積み上がり（リスク/不確実性減、価値増）に伴って、多様な資本戦略オプションが拡大



グローバル市場に挑む

～Chordiaのグローバル展開とAML市場～

- 当社は、世界最大の医薬品市場を有する米国でのrogocekibの販売を目指す
- FDA承認は、シンガポール、韓国、台湾、マレーシア、豪州、サウジアラビアなど多くの国でレライアンス制度による審査が迅速化され、国際展開を加速する



目次

| | | | |
|----|------------------|----|----|
| 1. | 会社概況 | P. | 3 |
| 2. | 2026年8月期 第2四半期業績 | P. | 6 |
| 3. | パイプラインの進捗状況 | P. | 10 |
| 4. | 事業の振り返りと今後の見通し | P. | 17 |

2026年8月期に向けての優先事業目標の進捗



rogocekib(CTX-712) 承認への臨床試験の進捗

米国第1/2相試験における拡大コホートの開始（症例組入れの加速）と、大手国際学会での第1相パート中間報告を通じて、臨床試験を推進します。

進捗状況

拡大コホート開始（第1症例目の投与開始）
欧州血液学会での中間報告の準備が進捗



新規事業提携に関する 積極的な取り組みを行う

CTX-177の再導出を重点課題としつつ、CTX-712など複数パイプラインで国内外企業との提携協議を継続し、確定次第、適時適切な情報開示を行います。

進捗状況

各種パイプラインの導出活動の継続
CTX-177における解約合意書の締結



株主に対しての情報開示を 適切に実行する

年1回以上の国内外学会での研究進捗発表に加え、投資家向けセミナーの開催やCEOからの積極的な情報発信により、コミュニケーションを密に行います。

進捗状況

個人投資家向けセミナー・IRイベント出展
企業調査レポートのHP開示

今後の主要注目ポイント

2025/9

- 拡大コホートの開始決定
- CTX-177解約合意書の締結
- 創製に関する化学論文掲載
- 日本の第1相臨床試験（血液がん）成績に関する論文掲載
- アメリカ血液学会（ASH）年次総会において治験医師会議を開催

2026/3以降

3月の主なニュース

- 拡大コホート1症例目の組入れ
- CDK12 阻害薬 CTX-439 に関する当社と京都大学の共同研究成果の論文掲載

2026/4以降

- 米国Phase I試験 中間成績 欧州血液学会にて発表（6月予定）
- 日本でのオーファンドラッグ指定を目指す（時期未定）

Tomorrow is Another Day

明日に希望を感じる社会の実現

「日本発」「世界初」のこれまでにない新しい抗がん薬を、
一日でも早く患者様のもとに。

———— Mission ————

We are passionate to deliver first in class cancer drugs to patients.

First in Class 抗がん薬を創る

———— 2030 Vision ————

To be an R&D oriented pharmaceutical company based in Japan.

日本発の研究開発型の製薬会社になる

当社の情報開示の方針について

- ・データの発表などは学会の許可を得てからの情報公開となりますが、可能な限り速やかな情報開示を行ってまいります。
- ・個別の質問に対する回答は、フェアディスクロージャーの観点から、控えさせて頂いております。
- ・IRに寄せられた質問に関しては、社内で協議のうえ、適切なタイミングにてホームページ上の「IRよくある質問」ページに回答を追加していきます。

免責事項

- 本資料は、関連情報の開示のみを目的として当社が作成したものであり、米国、日本国またはそれ以外の一切の法域における有価証券の売付けの申込みまたは買付けの申込みの勧誘を構成するものではありません。
- 米国、日本国またはそれ以外の一切の法域において、適用法令に基づく登録もしくは届出またはこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集または販売を行うことはできません。
- 本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の真実性、正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その真実性、正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。
- 本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。
- 将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。
- 将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。
- 将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。
- 新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

